

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 2019年11月13日

【四半期会計期間】 第45期第2四半期(自 2019年7月1日 至 2019年9月30日)

【会社名】 株式会社アスモ

【英訳名】 ASMO CORPORATION

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 長井 尊

【本店の所在の場所】 東京都新宿区西新宿二丁目4番1号 新宿NSビル

【電話番号】 03(6911)0550

【事務連絡者氏名】 社長室 鹿嶋 良治

【最寄りの連絡場所】 東京都新宿区西新宿二丁目4番1号 新宿NSビル

【電話番号】 03(6911)0550

【事務連絡者氏名】 社長室 鹿嶋 良治

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第44期 第2四半期 連結累計期間	第45期 第2四半期 連結累計期間	第44期
会計期間	自 2018年4月1日 至 2018年9月30日	自 2019年4月1日 至 2019年9月30日	自 2018年4月1日 至 2019年3月31日
売上高 (千円)	9,765,076	9,941,752	19,574,988
経常利益 (千円)	536,719	614,907	1,137,161
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益 (千円)	331,090	378,656	681,357
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	358,716	357,642	686,170
純資産額 (千円)	5,256,483	5,801,343	5,583,936
総資産額 (千円)	8,000,676	8,323,834	8,348,134
1株当たり四半期(当期) 純利益 (円)	23.61	27.01	48.6
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益 (円)			
自己資本比率 (%)	64.4	68.8	65.9
営業活動による キャッシュ・フロー (千円)	576,350	73,758	1,134,188
投資活動による キャッシュ・フロー (千円)	94,888	4,477	183,974
財務活動による キャッシュ・フロー (千円)	79,111	79,705	138,947
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高 (千円)	3,823,780	4,210,989	4,225,822

回次	第44期 第2四半期 連結会計期間	第45期 第2四半期 連結会計期間
会計期間	自 2018年7月1日 至 2018年9月30日	自 2019年7月1日 至 2019年9月30日
1株当たり四半期純利益 (円)	13.06	14.61

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載していません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益は、潜在株式が存在しないため記載していません。

2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、又は、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ(当社及び連結子会社)が判断したものであります。

(1) 経営成績

当第2四半期連結累計期間における世界情勢としては、前連結会計年度に開始された米国-中国間の貿易協議が追加の高関税化の応酬を伴いながら更に長期化し、世界経済への懸念が高まりました。英国のEU離脱の具体化は首相が交代し、引き続き迷走しました。大統領選を来年に控える米国政府からEU、日本への貿易改善要求も強まり、日米政府間では関税引き下げ合意が成立いたしました。日本の望む自動車関税引き下げが後回しになるなど波乱含みの展開となっております。

わが国の経済は、雇用情勢では新卒採用が売り手市場化している一方で、世界情勢を受け製造業を中心に景気の鈍化がみられました。

当社グループでは、各事業のストロングポイントを的確に見極めた上でシナジー効果を最大限に発揮していくこと、また、国内だけにとどまらず積極的に海外にも進出し、人口減少時代を迎える日本において多角的な収益構造を構築し、安定した成長を目指すことを目標としております。

今期においても各事業の強みを確実に伸ばすことで、全体として売上高・経常利益共に伸ばすことができました。

当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高9,941百万円(前年同四半期比1.8%増)、営業利益607百万円(前年同四半期比16.0%増)、経常利益614百万円(前年同四半期比14.6%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益は、378百万円(前年同四半期比14.4%増)となりました。

売上高の増加は、主に食肉販売事業、介護事業売上が増加したことによるものであります。営業利益、経常利益の増加は、売上の増加に加え、介護事業における有料老人ホーム入居率の上昇や介護の利用者の増加等によります。売上高営業利益率も前年同四半期より0.7ポイント改善して6.1%となることができました。

今後におきましても、売上高の増加、売上高営業利益率の更なる改善に加え、グループの目標通り東南アジアを含む様々な国や地域に進出し、事業を成長させることに邁進してまいります。

セグメントごとの状況は次のとおりであります。

セグメント名称 (セグメントに該当する会社)	主要な事業の内容	
アスモ事業 (株式会社アスモ)	グループ会社の統制・管理、不動産賃貸	
アスモトレーディング事業 (株式会社アスモトレーディング)	食肉の輸出入、食肉及び食肉加工品の販売	
アスモフードサービス事業 (株式会社アスモフードサービス) (株式会社アスモフードサービス首都圏) (株式会社アスモフードサービス東日本) (株式会社アスモフードサービス中日本) (株式会社アスモフードサービス西日本)	高齢者介護施設等における給食の提供	
アスモ介護サービス事業 (株式会社アスモ介護サービス) (株式会社アスモライフサービス)	訪問・居宅介護事業所の運営、有料老人ホームの運営	
ASMO CATERING (HK) 事業 (ASMO CATERING (HK) CO., LIMITED)	香港における外食店舗の運営	
その他	(サーバントラスト信託株式会社)	管理型信託商品の販売
	(アスモ少額短期保険株式会社)	少額短期保険商品の販売
	(ASMO CATERING(TAIWAN)COMPANY LIMITED)	台湾における外食店舗の運営

アスモトレーディング事業

アスモトレーディング事業におきましては、従来から最重点販売しております収益力の高い高品質メキシコ産チルド牛肉の安定販売及び銘柄牛を使った通信販売事業における販売の増加が続いております。

昨年は台風21号が大阪を直撃したことにより、当社においても倉庫から商品を出荷することができず売上減少したこともありましたが、この第2四半期におきましては、お客様のニーズを細かく聞き取り、需要期であるお盆休み以前に計画より販売を伸ばしました。その影響が8月及び9月と続き各月とも予算以上の成果を残すことができました。

しかし、今年は関東方面では7月の天候不順により、需要が思ったほど伸びないということもありました。西日本では昨年と比べて天候による被害が少なかったものの、関東方面においては台風15号の影響や豪雨により、各地に被害をもたらしたことで経済的な損失が大きくなりました。そのため外部倉庫では商品が入庫できず、商品を減らそうとした廉価販売により、商品の需給バランスが崩れて当社も影響を受けましたが、先物購買を調節するなどして被害を最小限にとどめることができました。物流面においては、保管倉庫・物流会社の方針として自然災害時における営業を今後は控える方向であり、自然災害時における機会損失については今後も起こりえることと思われます。取引先様への理解を深めるとともに、事前手配にて対応していきたく存じます。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は、1,778百万円（前年同四半期比15.1%増）、セグメント利益（営業利益）は49百万円（前年同四半期比53.2%増）となりました。

今後は自然災害における外部環境の変化にも対応し、加工商品の安定した生産ができるよう加工工場の開拓を実施して安定的な商品の供給を行い、価格を含めた商品の優位性をアピールして顧客満足の拡充を追求してまいります。

アスモフードサービス事業

アスモフードサービス事業におきましては、春先の日照不足の影響で生育不良となったことや、台風・各地の水害の影響等による青果仕入価格の高騰、人件費の上昇を伴った人手不足など、非常に厳しい状況で推移いたしました。そのような中でも採算性の高い施設を受託し、当第2四半期連結会計期間末現在、受託件数は259施設（前年同四半期末は257施設）となりました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は、3,737百万円（前年同期比2.4%増）と微増しましたが、青果仕入価格の高騰や人件費の上昇も影響し、セグメント利益（営業利益）は、253百万円（前年同四半期比6.4%減）と減少しております。

今後も厳しい状況が続くことが予想されますが、増収増益を達成できるよう、基盤の強化に努めてまいります。

また、商材の調達やメニュー開発、様々なイベント及び行事において、従来培った<食>のノウハウを活用することで、提供商品（給食）における付加価値を創出し、他社との差別化を図り、品質の向上に取り組んでまいりま

す。

アスモ介護サービス事業

アスモ介護サービス事業におきましては、訪問介護事業所、居宅介護支援事業所及び有料老人ホーム運営事業を営んでおり、業界全体としては恒常的な人手不足と、それに伴う人件費の上昇など、足元・先行きとも非常に厳しい状況にあります。

そのような状況の中、教育制度や資格補助制度の拡充をはじめ、キャリアパスの明確化、事務作業の軽減などによる職員の定着率が向上しております。その結果、訪問介護事業所、居宅介護支援事業所のご利用者数及び有料老人ホームのご入居者数を順調に伸ばすことができました。

これにより当第2四半期連結会計期間末現在、訪問介護事業所36事業所（前年同四半期末は36事業所）、居宅介護支援事業所12事業所（前年同四半期末は12事業所）となり、支援させていただいておりますご契約様は2,077名（前年同四半期末は2,021名）となりました。また、有料老人ホーム6施設（前年同四半期末は6施設）、ご入居者様数は328名（前年同四半期末は318名）となりました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は、3,184百万円（前年同四半期比4.0%増）、セグメント利益(営業利益)は、405百万円（前年同四半期比30.0%増）と、増収増益となりました。

今後も利用者の獲得に努めていくとともに、介護人材育成に注力していくことで、より良い人材の確保と定着率向上に努め、介護サービスの質の向上を図ってまいります。

ASMO CATERING (HK) 事業

ASMO CATERING (HK) 事業におきましては、5月より始まったデモが第2四半期においても収まるどころか、より激化していき当社全体の業績にも大きな影響が出ております。

当初は香港島の中心地区もしくは九龍半島の尖沙咀地区でありましたが、次第に香港郊外にもデモが広がっていき、特に週末においては過激化した一部と警察当局が激しく衝突する事態にまで深刻化しております。当社の店舗においても特に香港島の銅鑼湾地区にある『匠工房秀吉』SOGO銅鑼湾店、警察本部が直ぐ近くにある『神楽屋』湾仔店などは売上に大きな支障をきたしております。

また、ここ数年の香港の小売、飲食業の消費を牽引してきた中国本土からのインバウンドによる売上も大きく減少しており全店に影響を及ぼしております。

比較的被害が少ないのが、『和風食堂とら蔵』の元州店、ウォーチェ店などの住宅地にある店舗です。中国本土からのお客様の割合も元々低かったこともあり影響は限定的です。

このような非常に厳しい経営環境の中、既存店舗の収益力を上げるべく、『和風食堂とら蔵』各店においては終日の統一メニューから新たに時間帯を分けたランチメニューとアフタヌーンメニューを導入いたしました。特にランチタイムが弱かった啓田店などでは効果が表れ始めております。

また、デモの大きな影響を受けている『神楽屋』湾仔店においては、食べ放題のビュッフェメニューを実施しているディナータイムにおいて、ファミリー客の取り込みを図るためにデザートをより強化しております。季節のソフトクリーム（ホワイトピーチ）の導入や生乳プリン、抹茶ロールケーキなどの自社工場で作成した手作りデザートも食べ放題という夏のデザートフェアの開催などを実施いたしました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は、976百万円（前年同期比16.1%減）、セグメント損失(営業損失)は、51百万円（前年同四半期はセグメント損失37百万円）となりました。

物流事業においてもデモの影響は受けておりますが、引き続き日系飲食各社の取引先は増えており、顧客数もより増える予定です。

10月末時点では、デモの影響が最も深刻化した10月上旬と比較するとかかなり収束に向かっております。今後は今期既に計画より大きく下回ってしまった業績を取り戻すべく既存事業の回復に取り組んでまいります。

その他の事業

a. サーバントラスト信託株式会社

その他セグメントに含めておりますサーバントラスト信託株式会社は、管理型信託事業を営んでおり、『終活信託』と称した法人・個人向けの金銭管理信託（特定贈与信託、遺言代用信託を含む）及び不動産管理信託を主力とした信託商品の販売を行っております。

人生100年時代という超高齢化社会の到来により、高齢者の財産管理ニーズや資産承継ニーズが年々高まってきている社会背景を受け、高齢者の財産管理や資産承継を一連の流れで行うことができる『信託』の需要が今後ますます高まっていくものと予想されます。信託の特長である安心・確実な財産の保全と承継をキーワード

に高齢者のニーズを取り込み、本事業は今後も成長が期待できるものと考えております。

当第2四半期連結累計期間の売上につきましては、前期及び当期に生じた信託契約の解約の影響を受け、信託報酬46百万円(前年同四半期比6.2%減)、営業利益19百万円(前年同四半期比12.2%減)となりました。

引き続き、グループ会社とのシナジー及び高齢者支援団体等への営業活動を中心としたシニアマーケットの開拓により新規契約を獲得し、売上増加に努めてまいります。

b. アスモ少額短期保険株式会社

その他セグメントに含めておりますアスモ少額短期保険株式会社は、少額短期保険事業を展開しており、生命保険商品4種類(生命定期保険、入院保障付生命定期保険、無選択型生命保険、介護サポート総合保険)及び損害保険商品2種類(高齢者施設入居者家財保険、介護サポート総合保険)を販売しております。

生命保険商品は企業の従業員への福利厚生制度としての付保、保険比較サイトや医療・介護等のポータルサイト等とのタイアップによる通信販売で販売しております。また、損害保険商品「転ばぬ先の杖」(高齢者施設入居者家財保険)及び「てんとうむし」(介護サポート総合保険)は有料老人ホーム等を代理店化し入居者にお勧めする方法、及び老人ホーム紹介会社が他社との差別化を目的として1年間サービスとして付保するスキームにて展開しており、「転ばぬ先の杖」は当第2四半期連結会計期間に693件の新規契約があり、保有契約は2,418件となりました。

当第2四半期連結会計期間におきましては、収入保険料は85百万円となり、計画91百万円に対し93.4%の達成率となっております。また、当第2四半期連結累計期間では収入保険料は167百万円となり、計画168百万円に対し99.6%となっております。

第3四半期連結会計期間以降も、グループ会社とのシナジーを發揮させつつ、新規マーケットでの販売により新規契約を獲得し、収入保険料の増加に努めてまいります。

以上の結果、その他の事業における当第2四半期連結累計期間の売上高は、262百万円(前年同期比23.2%減)、セグメント利益(営業利益)は、42百万円(前年同四半期比30.6%増)となりました。

(2) 財政状態

(資産)

当第2四半期連結会計期間末における総資産は8,323百万円となり、前連結会計年度末に比べ24百万円減少いたしました。これは主に流動資産のその他に含まれる前払費用が22百万円、未収入金が20百万円、無形固定資産が20百万円増加し、現金及び預金が14百万円、受取手形及び売掛金が24百万円、有形固定資産が42百万円減少したことによるものであります。

(負債)

当第2四半期連結会計期間末における負債合計は2,522百万円となり、前連結会計年度末に比べ241百万円減少いたしました。これは主に短期借入金金が50百万円、賞与引当金が26百万円、未払法人税等が17百万円増加し、支払手形及び買掛金が113百万円、流動負債のその他に含まれる未払金が40百万円、その他流動負債に含まれる未払消費税等が39百万円、その他流動負債に含まれる預り金(主に親会社への配当に伴う源泉税)が150百万円減少したことによるものであります。

(純資産)

当第2四半期連結会計期間末における純資産合計は5,801百万円となり、前連結会計年度末に比べ217百万円増加いたしました。これは主に利益剰余金が238百万円増加し、為替調整換算勘定が4百万円、非支配者株主持分が13百万円減少したことによるものであります。

この結果、自己資本比率は68.8%(前連結会計年度末は65.9%)となりました。

(3) キャッシュ・フロー

当第2四半期連結累計期間の営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前四半期純利益612百万円や減価償却費54百万円に加えて、債権債務の増減及び法人税等の支払等により、73百万円の収入(前年同四半期576百万円の収入)となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、有形固定資産の取得による支出等4百万円の支出(前年同四半期94百万

円の支出)となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、リース債務の返済や普通配当の実施等により、79百万円の支出(前年同四半期79百万円の支出)となりました。

その結果、現金及び現金同等物の当第2四半期連結会計期間末残高は前連結会計年度末残高の4,225百万円から14百万円の減少の4,210百万円となりました。

当社グループの当第2四半期連結累計期間の資金状況においては、営業活動によるキャッシュ・フローが73百万円の収入で、投資活動によるキャッシュ・フローが4百万円の支出で、両者を合わせたいわゆるフリー・キャッシュ・フローが69百万円の収入となっております。

資本の財源及び資金の流動性につきましては、当社グループの運転資金・設備投資のために一部連結子会社で一時的な借入を行うことがあるものの、基本的には自己資金により充当しており、資金の流動性は十分に確保できております。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(5) 研究開発活動

該当事項はありません。

3 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約の決定又は締結等はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	60,000,000
計	60,000,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (2019年9月30日)	提出日現在 発行数(株) (2019年11月13日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	15,145,175	15,145,175	東京証券取引所 市場第二部	単元株式数 100株
計	15,145,175	15,145,175		

(注) 発行済株式数のうち461千株は、現物出資(貸付金債権299,650千円)によるものであります。

(2) 【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
2019年7月1日～ 2019年9月30日		15,145		2,323,272		

(5) 【大株主の状況】

2019年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式(自己株式を除く。)の総数に対する所有株式数の割合(%)
株式会社Persons Bridge	東京都新宿区西新宿2丁目4-1 新宿NSビル25階	8,200	58.48
株式会社ベストライフ	東京都新宿区西新宿2丁目6-1 新宿住友ビルディング29階	1,528	10.90
長井 博實	東京都杉並区	1,084	7.74
福山 良二	千葉県千葉市中央区	177	1.26
株式会社SBI証券	東京都港区六本木1丁目6番1号	153	1.09
石原 幸久	兵庫県揖保郡太子町	38	0.27
多田 勉	和歌山県和歌山市美園町	37	0.27
カブドットコム証券株式会社	東京都千代田区大手町1丁目3番2号 経団連会館6階	37	0.26
小出 正文	愛知県名古屋市天白区	36	0.26
武田 昌姫	神奈川県横浜市神奈川区	35	0.25
計		11,328	80.79

(注) 上記のほか、自己株式が1,124千株あります。

(6) 【議決権の状況】

【発行済株式】

2019年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 1,124,400		
完全議決権株式(その他)	普通株式 14,018,800	140,188	
単元未満株式	普通株式 1,975		
発行済株式総数	15,145,175		
総株主の議決権		140,188	

【自己株式等】

2019年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
株式会社アスモ	東京都新宿区西新宿 二丁目4番1号 新宿NSビル	1,124,400		1,124,400	7.42
計		1,124,400		1,124,400	7.42

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間(2019年7月1日から2019年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(2019年4月1日から2019年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、RSM清和監査法人による四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	4,295,834	4,281,006
受取手形及び売掛金	2,036,706	2,012,291
商品	258,892	261,113
貯蔵品	11,865	12,066
その他	366,485	407,061
貸倒引当金	90,675	90,760
流動資産合計	6,879,108	6,882,779
固定資産		
有形固定資産		
その他(純額)	250,941	208,726
有形固定資産合計	250,941	208,726
無形固定資産		
その他	30,642	51,500
無形固定資産合計	30,642	51,500
投資その他の資産		
その他	1,507,681	1,505,562
貸倒引当金	320,238	324,735
投資その他の資産合計	1,187,442	1,180,827
固定資産合計	1,469,026	1,441,054
資産合計	8,348,134	8,323,834

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	609,680	496,204
短期借入金		50,000
未払法人税等	235,650	253,585
賞与引当金	204,637	231,492
その他	1,473,886	1,209,932
流動負債合計	2,523,853	2,241,214
固定負債		
退職給付に係る負債	202,073	220,120
その他	38,270	61,155
固定負債合計	240,344	281,275
負債合計	2,764,197	2,522,490
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,323,272	2,323,272
利益剰余金	3,100,373	3,338,823
自己株式	42,459	42,487
株主資本合計	5,381,186	5,619,608
その他の包括利益累計額		
繰延ヘッジ損益	136	156
為替換算調整勘定	111,716	106,866
退職給付に係る調整累計額	5,459	2,729
その他の包括利益累計額合計	117,039	109,439
非支配株主持分	85,710	72,295
純資産合計	5,583,936	5,801,343
負債純資産合計	8,348,134	8,323,834

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2018年4月1日 至2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年9月30日)
売上高	9,765,076	9,941,752
売上原価	7,412,799	7,668,804
売上総利益	2,352,277	2,272,947
販売費及び一般管理費	1,828,371	1,665,095
営業利益	523,905	607,852
営業外収益		
受取利息	3,481	3,431
物品賃貸料収入	2,943	3,162
助成金収入	4,412	4,098
その他	6,815	4,479
営業外収益合計	17,653	15,171
営業外費用		
支払利息	746	617
貸倒引当金繰入額	4,055	4,423
為替差損		3,074
その他	37	
営業外費用合計	4,839	8,115
経常利益	536,719	614,907
特別利益		
固定資産売却益	0	
特別利益合計	0	
特別損失		
固定資産除却損	465	2,578
店舗解約違約金	8,443	
その他	536	
特別損失合計	9,445	2,578
税金等調整前四半期純利益	527,273	612,329
法人税、住民税及び事業税	187,870	247,095
法人税等調整額	17,334	1,164
法人税等合計	205,205	245,931
四半期純利益	322,068	366,397
非支配株主に帰属する四半期純損失()	9,021	12,259
親会社株主に帰属する四半期純利益	331,090	378,656

【四半期連結包括利益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2018年4月1日 至2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年9月30日)
四半期純利益	322,068	366,397
その他の包括利益		
繰延ヘッジ損益	299	20
為替換算調整勘定	34,279	6,005
退職給付に係る調整額	2,069	2,729
その他の包括利益合計	36,648	8,755
四半期包括利益	358,716	357,642
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	360,377	371,056
非支配株主に係る四半期包括利益	1,660	13,414

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	527,273	612,329
減価償却費	61,328	54,094
のれん償却額	9,931	
貸倒引当金の増減額(は減少)	4,573	4,581
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	18,016	15,316
賞与引当金の増減額(は減少)	1,254	26,990
受取利息及び受取配当金	3,481	3,431
支払利息	746	617
為替差損益(は益)	5,989	2,129
有形固定資産売却損益(は益)	0	
有形固定資産除却損	414	2,578
無形固定資産除却損	50	
店舗解約違約金	8,443	
売上債権の増減額(は増加)	120,239	8,974
その他の資産の増減額(は増加)	6,174	30,566
たな卸資産の増減額(は増加)	10,450	3,769
仕入債務の増減額(は減少)	43,833	112,206
その他の負債の増減額(は減少)	119,159	116,832
未払消費税等の増減額(は減少)	98,325	36,242
その他	117	334
小計	661,628	406,279
利息及び配当金の受取額	61	365
利息の支払額	746	617
法人税等の支払額	102,718	332,895
法人税等の還付額	18,125	626
営業活動によるキャッシュ・フロー	576,350	73,758
投資活動によるキャッシュ・フロー		
投資有価証券の取得による支出	10,042	
有形固定資産の取得による支出	52,767	4,304
有形固定資産の売却による収入	43	
無形固定資産の取得による支出	2,400	
定期預金の預入による支出	70,011	70,017
定期預金の払戻による収入	70,005	70,011
差入保証金の差入による支出	99,093	57,401
差入保証金の回収による収入	63,560	57,025
貸付けによる支出	2,142	7,689
貸付金の回収による収入	60	
建設協力金の回収による収入	7,898	7,898
投資活動によるキャッシュ・フロー	94,888	4,477

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	50,000	50,000
リース債務の返済による支出	9,554	9,805
自己株式の取得による支出	0	27
配当金の支払額	119,556	119,872
財務活動によるキャッシュ・フロー	79,111	79,705
現金及び現金同等物に係る換算差額	18,579	4,408
現金及び現金同等物の増減額（は減少）	420,930	14,833
現金及び現金同等物の期首残高	3,402,850	4,225,822
現金及び現金同等物の四半期末残高	3,823,780	4,210,989

【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

該当事項はありません。

(追加情報)

該当事項はありません。

(四半期連結貸借対照表関係)

該当事項はありません。

(四半期連結損益計算書関係)

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
従業員給料及び手当	596,622千円	545,289千円
賞与引当金繰入額	65,529	58,926
退職給付費用	802	740
貸倒引当金繰入額	518	157

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は下記のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
現金及び預金	3,893,792千円	4,281,006千円
預入期間が3か月を超える 定期預金	70,011	70,017
現金及び現金同等物	3,823,780	4,210,989

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)

1. 配当に関する事項

配当支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たりの 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2018年5月14日 取締役会	普通株式	140,207	10	2018年3月31日	2018年6月27日	利益剰余金

2. 株主資本の金額の著しい変動

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)

1. 配当に関する事項

配当支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たりの 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2019年5月14日 取締役会	普通株式	140,207	10	2019年3月31日	2019年6月27日	利益剰余金

2. 株主資本の金額の著しい変動

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント					計
	アスモ事業	アスモトレーディング事業	アスモフードサービス事業	アスモ介護サービス事業	ASMO CATERING (HK)事業	
売上高						
外部顧客への売上高	2,376	1,544,667	3,650,211	3,062,139	1,163,918	9,423,313
セグメント間の内部売上高又は振替高		32,150	119,616			151,766
計	2,376	1,576,818	3,769,827	3,062,139	1,163,918	9,575,079
セグメント利益又は損失()	86,359	32,235	270,355	312,215	37,332	491,116

(単位：千円)

	その他(注)	合計	調整額	四半期連結損益計算書計上額
売上高				
外部顧客への売上高	341,763	9,765,076		9,765,076
セグメント間の内部売上高又は振替高		151,766	151,766	
計	341,763	9,916,843	151,766	9,765,076
セグメント利益又は損失()	32,356	523,473	432	523,905

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれていない事業セグメントであります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の内容(差異調整に関する事項)

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	491,116
「その他」の区分の利益	32,356
セグメント間取引消去	432
四半期連結損益計算書の営業利益	523,905

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント					計
	アスモ 事業	アスモトレ ーディング 事業	アスモフー ドサービス 事業	アスモ介護 サービス 事業	ASMO CATERING (HK)事業	
売上高						
外部顧客への売上高	2,376	1,778,344	3,737,421	3,184,912	976,301	9,679,355
セグメント間の内部売上高 又は振替高		36,419	122,683			159,102
計	2,376	1,814,763	3,860,104	3,184,912	976,301	9,838,457
セグメント利益又は損失()	90,790	49,389	253,125	405,859	51,946	565,637

(単位：千円)

	その他 (注)	合計	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額
売上高				
外部顧客への売上高	262,397	9,941,752		9,941,752
セグメント間の内部売上高 又は振替高		159,102	159,102	
計	262,397	10,100,854	159,102	9,941,752
セグメント利益又は損失()	42,257	607,895	43	607,852

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれていない事業セグメントであります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容
(差異調整に関する事項)

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	565,637
「その他」の区分の利益	42,257
セグメント間取引消去	43
四半期連結損益計算書の営業利益	607,852

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
1株当たり四半期純利益	23円61銭	27円01銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益(千円)	331,090	378,656
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益(千円)	331,090	378,656
普通株式の期中平均株式数(千株)	14,020	14,020

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2019年11月8日

株式会社アスモ
取締役会 御中

R S M 清 和 監 査 法 人

指 定 社 員
業務執行社員 公認会計士 藤 本 亮

指 定 社 員
業務執行社員 公認会計士 岡 村 新 平

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社アスモの2019年4月1日から2020年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間(2019年7月1日から2019年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(2019年4月1日から2019年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社アスモ及び連結子会社の2019年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。